

記者懇談会の記録

日時	令和4年7月29日（金）15：30～15：50
場所	岩見沢市役所 3階 会議室 3-1・3-2
記者数	5人

1 農業DX推進事業について

（市長）

それではよろしく申し上げます。農業DX推進事業について、でございますが、岩見沢市はもとより、農業を取り巻く環境については、地球規模で進む温暖化の影響をはじめ、生産者の減少・高齢化など生産基盤の脆弱化、人口減少・新型コロナウイルスを契機とした生活スタイルや消費ニーズの変化、さらには燃油・資材・肥料の著しい高騰など、農業の持続性が大きく脅かされる事態となり、食料安全保障が骨太の方針2022に明記されるなど、その重要性が一層高まってきているものと認識しています。

そのため、岩見沢市では本年度から3か年の事業期間で、新たな農業体制の構築による地域農業の持続性の確保、農業所得の向上を目指して「農業DX推進事業」に取り組むこととしております。

この事業を推進していくための組織ですが、お配りした資料の右側、水色の枠の中になりますが、いわみざわ地域・農業活性化連絡協議会をはじめ、JAいわみざわ、空知農業改良普及センターなどの農業関係機関、進行管理役の企業で構成するコンソーシアムに業務委託を行うこととしており、現在、水田活用の交付金や資材高騰の問題も含めるべく業務内容の精査を行っているところです。

そして、資料左側の緑色の枠で囲まれた「推進会議」につきましては、コンソーシアムの取組みに対して、生産者の声を一番近くで受け止めているJAの知見や、北海道大学の知財を加えた中で、協力・助言を行い、また検討された結果を各分野の施策に反映させていくための協議をしていきたいと考えています。

また、左下のピンクの枠で囲まれた協力機関・企業につきましては、例えば、北海道大学大学院農学研究院では様々な専門分野の研究を行っている多くの先生がいらっしゃいますし、また企業においても各分野に精通した様々な企業がございます。コンソーシアムの取組みに対して、協力していただくこととしております。

本日、先ほど申し上げました左側の緑色の枠の所にあります「岩見沢市農業DX推進会議」の施策協議に関しまして、岩見沢市と、事業の趣旨にご賛同いただきました北海道大学産学・地域協働推進機構及びJAいわみざわの3者間におきまして、産学官協定を締結いたしましたので、併せて報告させていただきます。

<質疑応答>

(北海道新聞)

市長が今回の農業 DX 推進事業に期待するところをお伺いできればと思います。

(市長)

農業を取り巻く環境を踏まえた上で、これからさらに強い、新しい岩見沢農業の持続性を確保するためには、やはり専門家の方の知見を十分活かすということで、先ほど申し上げた JA いわみざわ、あるいは北大の産学・地域協働推進機構、そういった方々と連携することによって、例えばマーケティングの強化では、マーケットが求めている産物の生成、一次加工、食関連産業との連携、さらには、新規作物の導入、あるいは今岩見沢でも中心となってやっております、水稻を中心とした空知型輪作体系、それらのさらに高度化につながると考えます。

そして、データ分析としては、土壌分析データ、今年からは従来の化学性に加えて物理性の分析も実施いたしますし、あるいはスマート農業、さらにはセンシング、それらを組み合わせてより持続性の高い農業を構築していきたいと思います。

さらに、生産基盤を最適化する面では、先ほど申し上げました肥料も高騰しておりますし、その最適化を図る、あるいは堆肥散布による費用の積算といった農業経営に資するような経済分析、そういったものを有効利用することによって、全体の最適化を図るというようなことで、資料にも書いてありますとおり、マーケットニーズ、農業経済分析、生産基盤の最適化と、農作業の省力化と高品質化、高位平準化、そういったものを連動させて取り組んでいきたいと考えています。

(北海道新聞)

3 か年での事業ということなのですが、最終的に何か成果を求める、ですとか、どのような終着点を目指していらっしゃいますか。

(市長)

これから 3 か年で、コンソーシアムと業務内容については十分詰めてまいります、まず本年度からは既存作物の販路拡大、新規作物の導入の検討、土壌診断・土壌分析、それから先ほど申し上げたような堆肥散布費用の積算ですとか、残留化学肥料の把握、それから、肥料の散布などを農家の方が自らというよりは農作業の請負法人化、つまりコントラクターの社会実装の検証、そういったものを今年度中にいろいろとやっていきますし、データ活用の分野では、可変散布のマップですとか、生育状況のマップ作成、来年度からはセンシングデータに基づく肥料散布のモデルの検討・実装、それから、今年は施設園芸のスマート化の実証も取り組むこととしておりますので、そういった分野を来年、再来年と検証し、特に新規作物の導入に関しては、再来年からは生産体系の確立ということも視野に入れて取り組みたいと思っています。

最終的に 2025 年度には、地力とスマート農業の融合による農業所得の向上につなげていこうということをご共有認識として取り組むこととしております。

2 武田社ワクチン（ノバボックス）の接種について

（市長）

これも、お手元の資料を見ながらお聞きいただきたいのですが、武田社の新型コロナワクチン、ノバボックスの接種についてご説明します。

岩見沢市では、これまでアレルギーや副反応などの理由から新型コロナワクチン接種を見合わせていた方を対象に、ノバボックスワクチンの接種を9月から開始いたします。

接種対象は、1回目と2回目の初回接種が12歳以上の市民、人数分としては20人分、3回目の追加接種が2回目の接種を完了した18歳以上の市民80人の合計100人でスタートしたいと思います。

また、予約状況によりましては、最大200回接種分まで予約枠を増やして対応することを予定しています。

接種日については、初回接種の1回目を接種される方が9月3日土曜日、2回目を接種される方が3週間後の9月24日土曜日、3回目の追加接種は9月17日土曜日のそれぞれ9時30分から13時までの間、接種会場は、4条西3丁目、であえーる岩見沢3階の岩見沢保健センターで行います。

予約受付ですが、8月1日からの開始を予定しています。受付方法はこれまでどおり市コールセンターかインターネットでの受け付けとなります。

今、岩見沢市では4回目の接種も進めていますが、4回目の接種はモデルナ製のものになります。ノバボックスを使えるのは3回目接種までの対象ということで限定されていますので、今北海道では広域対応ということで、岩見沢市を含めて、札幌の会場でノバボックスのワクチン接種を進めていますが、改めて岩見沢でもその環境を整えるということで、ノバボックスの接種を開始するということとなります。

< 質疑応答 >

（北海道新聞）

この接種については、1回目、2回目のこの日程のうちに100人分を行うということなのか、ここをスタートに何日間か設定する予定があるのかを教えてください。

（市長）

初回接種の方については、今20名を想定しています。初回接種ということで、1回目と2回目は12歳以上の市民20名、それから、追加接種は3回目の接種の方が対象になるのですが、これが18歳以上の市民の方80名分の枠ということで考えています。

（北海道新聞）

追加接種は9月17日の1日で80名分の接種を行うということによろしいでしょうか。

（市長）

はい。そうです。ご希望が増えることも想定されますので、さらに200回分までの接種は予定

しているということになります。

(北海道新聞)

その100人以上の200回分までの予約枠の増加についてはまた別日を設定して行うのでしょうか。

(健康福祉部長)

初回の予約状況を見ながらになります。1・2回目の初回が多いのか、3回目の追加接種が多いのか、ニーズがまだ読めないのが、それに合わせて柔軟に対応したいと思います。

(北海道新聞)

ノバボックス以外のワクチンの枠の拡充については検討されていますか。

(市長)

ノバボックス以外の接種については、モデルナとファイザーで十分対応できていますので、ご希望に沿った形で接種を進めていると思います。

3 その他

(市長)

今日、午後から農業者の方といろいろとお話しをしたのですが、岩見沢の収穫状況と言いますか、生育状況は非常に順調に行っていると。麦の収穫もここ1、2日で予定は終えて、玉ねぎが今年は非常に出来がいいということで、大きく期待していらっしゃいました。豊穰の秋を迎えてほしいと願っています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)